

美術の窓(168)

広重画の摺物「風の神」は何を描いているのか

大和文華館館長 浅野秀剛

今年の7月は、あべのハルカス美術館の「広重一摺の極一」展(7月6日～9月1日)とはほぼ同時に、大和文華館で、「レスコヴィッチコレクションの摺物一ぱりから来た北斎・広重・北溪・岳亭一」展(7月9日～9月1日)を開催する予定である。摺物とは、注文制作の非売品の版画であり(絵の写っていない摺物もあるが、展覧会で出品するのはすべて絵入り)、その性質上、制作部数が少ないので、必然的に現存するものも少ない。北斎は特に多く、千点に迫るかと思われる数を制作しているが、今回は広重の摺物の話をさせていただきたい。広重の摺物は、「広重」展と「摺物」展に分けて展示するが、今回取り上げるのは、「摺物」展に出品する「風の神」(図1)である。

この「風の神」がレスコヴィッチコレクションにあることを知ったのは最近のことである。「風の神(風の神送り)」とは、「風の神を追い払う」という名目で、編み笠や面を被り、太鼓を叩いて

歩く物乞いで、図の二人をその「風の神」と考証したのは私であり、広重と狂歌師は「鳥追」と認識していたと思われる。初めて目にする作品であり、図版で紹介されたことはないと思われるが、広重研究のバイブルともいべき、内田實『廣重』(岩波書店、1930年)の作画総目録の摺物の項に「角摺物 鳥追ひ 天保八酉年春」と記載されているものに相当するものに違いない。「角摺物」と記しているとおりの角判摺物(色紙判摺物)で21.1×18.9cm。「花廻春人 初鶏にまぼほうらいを祝ひそめ千代も八千代も鶴亀の年」…元旦の初鶏の声に合わせて蓬莱台を飾って祝い初めをしよう、鶴亀のように何千年も長生きできるように…、「桜川慈悲成 踏歌会のあらればしりも鳥追もせちよやまんちよ田祝ふ初春」…踏歌会のあられ走りや、鳥追のように千町万丁と言って田畑の無事を祝う初春はめでたいことだ…という2首の狂歌が記されているので、桜川慈悲成社中に属する花廻春人が注文主としてよい。花廻春人については

未詳であるが、二代目桜川慈悲成襲名披露の摺物「朝比奈図」(広重画、天保11年、「広重展」に出品)に「花廻春人君」として狂歌が載るので、「君」づけされる貴顕(おそらく大名か旗本)であろう。狂歌に「初鶏」「鳥追」とあり、広重の署名の様式も合わせ考えると、酉年の春興摺物、すなわち、天保8年(1837)春用の摺物としてほぼ間違いない。

問題は何を描いているのか、である。

今回は一応「風の神」としたが、100%の確証があるわけではない。左方に門松が描かれ、編笠を被った男と子供が采を振り、太鼓を叩いて踊っている。狂歌を詠むと、新年の巷間に現れる「鳥追」と思ったが、江戸中期以降の浮世絵に描かれている若い男女の鳥追とは明らかに異なる。署名「應需 廣重写」の下の印章は「式蝶圖」と読めるので、広重は英一蝶(1652～1724)の図を模写したと明記している。

そこで、元禄3年(1690)刊「人倫訓蒙図彙」の巻7を確認すると、可能性のあるものが3図あった。順に記すと、「風のかみ」(図2)、「せきざろ」(図3)、「たき」(図4)である。ただ残念ながら、これだと決定できるほど似ているものはない。「風のかみ」の説明には「風神排(かせのかみはらひ) 世間に風気時行(はやり)ぬれば、風の神をおひはらふとて、面をかつぎ太鼓を

打て物をもらう。とをれといふてもしこりかいつて猶たいく(後略)」、「せきざろ」の説明には、「節季候(せきざろ) 都鄙にあり。都には十二月廿日より出る。節季にて候へば、くるとしの福と又年の終まで何事なくくりかさねしをいはふ心なるべし」、「たき」の説明は「鳥追」になっていて、「千町万丁の鳥追とみづから名乗るなり」と記されている。当然ながら、『人倫訓蒙図彙』だけが唯一の資料ではないので、他の資料も合わせて考えるともっと複雑になる。太鼓を叩くということを重視すれば、風の神となるが、農家で正月に行われた鳥追も太鼓を叩いたようなので、確信はもてない。ただ、図は正月の市中の光景のようである。

基になった一蝶の作品を探し出せば、もう少し分かるであろうが、それは叶わなかった。一蝶は月次風俗図(十二か月風俗図)の類をたくさん制作していて、その暮の風俗には、節季候が多く描かれる。図5は、ホノルル美術館蔵の「風俗図巻」の暮の景に描かれている節季候である。もし、一蝶の原図が見出されたとしても、一蝶が描いたものを広重や狂歌師が正確に理解してそれを写したかどうかは、別に考えなければならぬであろう。

クドクドと説明してしまったが、夏の摺物展と広重展には面白いものがたくさん出品されるので、是非ともお運びいただきたいと念願している。



図1 ジョルジュ・レスコヴィッチコレクション



図2 国立国会図書館ウェブサイトから転載



図3 国立国会図書館ウェブサイトから転載



図4 国立国会図書館ウェブサイトから転載



図5 「近世風俗図巻」第一巻、毎日新聞社、1973年、から複写

季刊 美のたより No.226

令和6年4月5日

発行 大和文華館